

JST、RISTEX、JPMJRX2116シンポジウム  
救急&パンデミックにおける性暴力・DV対応とトラウマイ  
ンフォームド・ケア

## 日本における性暴力被害者の 急性期対応の課題

武蔵野大学  
小西聖子

## Introductionとして何を話すか

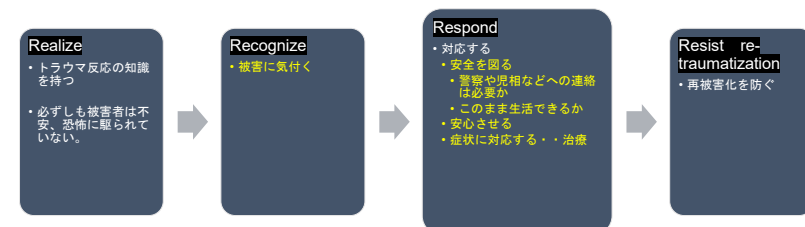
- 1)精神医学、心理臨床から見た急性期ケア
- 2)女性に対する暴力に対応する政策から見たワンストップセンターの課題

どちらの仕事もやっているのです、迷うところです。  
今回は短い時間ですが両方お話しすることにしました。

## 前提として：ケアということの意味

- 身体的ケアもあれば心理的ケアもある
- 様々な「専門性」がある
- すべてのことを一度にすることはできない
- ここでは、PTSDを扱う治療の専門家ではない支援者を対象としたケアの方法について述べる。
- その原則は「trauma-informed care」である。

## 性暴力被害者への心理的対応 —まずはTrauma informed careの視点で



SAMHSA's Concept of Trauma and Guidance for a Trauma-Informed Approach, 2014から作成

## Trauma-informed care とは？

- 健康にかかわる専門家が、対象者にかかわるときに、トラウマを意識し、適切に扱うことで、安全、エンパワメント、癒しを増進する実践。
  - 例) 病院や医療機関は、トラウマのサバイバーにとって怖いところでもある。服を脱ぐように言われたり、侵襲的な検査を行ったりすることは、性的虐待のサバイバーにとっては、フラッシュバックを起こす場所に他ならない。
    - <https://www.health.harvard.edu/blog/trauma-informed-care-what-it-is-and-why-its-important-2018101613562> より演者翻訳
- 個人の実践ではなく、組織全体、部局全体で取り組む必要がある。

## 急性期ケアの課題

個人としては、支援者の皆様に発見力と支援力 (recognize, respond) を高めてもらいたい。

関連の専門家(医療、司法)には被害者の心理特徴を知って認めてほしい(realize, recognize)

## 性暴力の被害の多くはトラウマ体験である

- DSM-5では、トラウマとなる 実際の性的暴力、またはその驚異の例として下記の行為が挙げられている。
  - 無理強いされた性交
  - アルコールや薬物で興奮を高めた性交
  - 虐待的な性的接触
  - 身体接触を伴わない性的虐待(abusive sexual contact)
  - 性的目的のための人身売買
- 子供の場合の性暴力となる出来事には、身体的暴力または怪我を伴わない発達の不適切な性的体験もある。

性暴力の被害にあったとき、心にどんなことが起こるか  
— 精神医学的急性期とはいつのことか



被害にあっている間は？

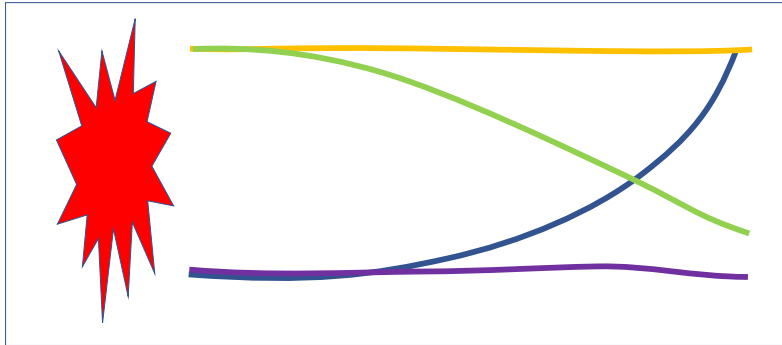
被害が終わった直後は？

被害にあった翌日は？

被害にあってから一週間では？

被害にあってから一か月では？

## PTSD症状の様々な経過



## 周トラウマ期(peritraumatic phase)

- 被害の最中から様々な反応が起こる。一時的なものもあるが、あとまで続くものもある。
  - Freeze, Fight/Flightの反応
  - 震える、冷や汗、動悸
  - 体が動かない
  - 離人感
  - 非現実感
  - 感情の麻痺
  - 感覚の麻痺、歪み
  - (あとから) 心理的健忘

## いつ被害者と会うのか？①

→トラウマ反応は時期によって異なる。さらに個人差が大きい。

### 事件の直後（その日、数時間後、翌日など）

#### 回避、解離系の症状

- 感情の麻痺-淡々としている
- 離人感
- 事件の評価ができない、なかったかのような
- 言葉が出てこない

#### 恐怖、不安

- 興奮
- 恐怖
- 不安の亢進、パニック発作

## 被害直後に支援するとき（まだ震えている人、茫然としている人、淡々としている人）

- 安全の確保
- 身体的なケア
  - 感覚の麻痺が起きていて、出血や痛み等に気づかないことがある
- 心理的なケア（安全感の確保）
  - 座る、落ち着く、水を飲む
  - 場面を変える
  - 一人にしない
  - GroundingやRelaxation
  - フィードバックをかけながら情報や心理教育(normalization) をする

## いつ被害者と会うのか？②

→トラウマ反応は時期によって異なる。さらに個人差が大きい。

**急性トラウマ反応の時期** (2, 3日から1か月:定義上。しかしもっと続くことも、取まってしまうことも)

### 回避の症状

- 思考の回避
- 考えないように刺激を減らす。(時にはほかのことに忙殺されるようにする)
- 事件のことを語らない
- 感情も回避する
- 身体化
- 解離の持続

### 侵入症状

- トラウマ記憶の(生々しい、繰り返す、止められない) 侵入

## 急性期 (翌日から2, 3か月)

- 急性ストレス反応
- PTSDの症状や解離症状
- 解離症状にはなかなか理解しがたいものもある
  - 転換性の症状(ヒステリー)、アイデンティティや感情の不統合、夢中遊行など
- 自然回復の可能性
- 遅延発症の可能性
- 回避が強くなることも

## 急性期の人のケア

- よく話せれば、話をよく聞く。批判的、批評的な扱いをしない。
- 話を無理強いしない。
- 二次被害を与えない。
- 生活の支援
- 本人だけでなく周囲の人も支援する。
- 可能な範囲でサポーターに心理教育。
- 医療との連携が必要な場合も。

## いつ被害者と会うのか？③

→トラウマ反応は時期によって異なる。さらに個人差が大きい。

**慢性トラウマ反応の時期** (1か月:定義上、3か月以上:臨床) 急性トラウマ期と同じような反応であることも。)

### 回避の症状

- 思考の回避、感情の回避の慢性化、常態化
- 身体化
- 解離の持続、アイデンティティの不統合
- 感情不安定
- 対人関係の不調

### 侵入症状

- 慢性的な侵入症状
- 解離による対処

## 慢性期（くり返しの被害を含む）

- PTSD症状
- 強力で持続的な回避症状、解離症状
  - 自分なりの対処方法になってしまう—これによって何が何だかわからないことも
  - 場合によっては解離性障害と診断できることも
  - 症状の重さは様々である。
  - 長引いている場合の一因にほかの問題が存在している場合もある
- 抑うつ、物質依存が併存しやすい

では日本の状況は？

## こういう急性期の担い手として

内閣府「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター開設・運営の手引」から  
ワンストップ支援センターは、性犯罪・性暴力被害者に、被害直後からの総合的な支援（産婦人科医療（※1）、相談・カウンセリング等の心理的支援、捜査関連の支援、法的支援等）を可能な限り一か所で提供することにより、被害者の心身の負担を軽減し、その健康の回復を図るとともに、警察への届出の促進・被害の潜在化防止を目的とするものである（※2）。

性暴力救援センター日赤なごやなごみ

性暴力救援センター日赤なごやなごみは、性暴力被害者に被害直後から回復まで継続してお手伝いをしております。

性暴力被害にあった人たちに被害直後から総合的な支援を可能な限り1ヶ所で提供します。被害の潜在化を防ぎ、被害によるダメージからのより早い回復に繋がります。

暴力被害の影響が世代を超えて連鎖することを断ち切ることを目指しています。

## 日本における急性期対応の課題（1）

- 十分な連携を持ったワンストップセンターの偏在(日本全国で同じケアが受けられるわけではない)
  - 平成30年に全国都道府県にできたが、それぞれの活動の歴史によって特色があるのは悪いことではない。(しかし資金や規模の問題から活動がワンストップとは言い難いところもある。現在24時間対応は半数程度)
  - 医療機関、さらにそのほかの相談機関や福祉機関、司法関係との連携に課題があるところが多い。
  - この仕事についている人にも、様々な力の人がいるが、連携先は相変わらずジェンダーに関する偏見や、レイプへの偏見にとらわれていたり、被害者の理解が十分でないところが多い。

## 日本における急性期対応の課題（2）

- 基盤としての性犯罪に関する刑法の規定の後進性。
- 現在平成27年の改正後の再改正に向けて刑法審議会の部会が始まったところ。
- 主な論点
  - 強制性交等罪の暴行・脅迫の要件，準強制性交等罪強制性交等罪の暴行脅迫要件
  - 地位・関係性を利用した犯罪類型の在り方
  - 性交同意年齢
  - 公訴時効の在り方
- 等が議論されている

## 日本における急性期対応の課題（3）

- 精神科医として筆者が考えている日本の課題
- PTSD治療(認知行動療法によるエビデンスベーストな治療)がなかなか広がらない
- 司法関係者：警察官、検察官、裁判官の性的被害に関する知識が文字の「教養」にとどまり（あるいはそれもなく）被害者の現実の反応が見えず、法律の条文しか見ていないことに遭遇する。
- 支援者ももっとトラウマインフォームドになったほうが、安定してよい支援ができるのでは。自分の気持ちもラクなはず。